

令和元年 12 月 13 日 (金曜日)

建通新聞

『荒廃する日本』発刊

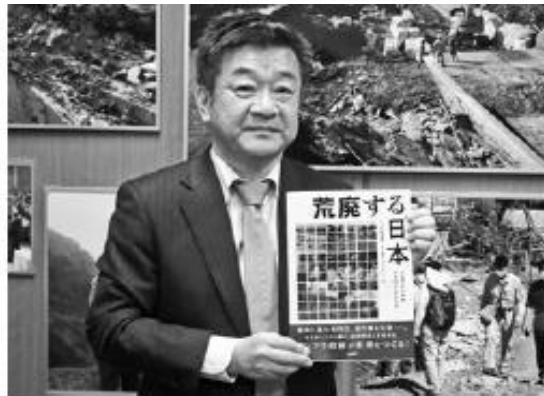
足立参院議員ら インフラ投資に必然性

インフラ再生研究会は、経済成長を実現するためのインフラ投資の必然性を指摘する『荒廃する日本』これでもいいのかジャパン・インフラを発売した。日本のインフラの整備水準の低さに危機感を持った参院議員の足立敏之氏「写真」が呼び掛け人となり、国内外のデータに基づいて日本のインフラの現状を分析。国際競争力を高めるインフラ整備と老朽化対策の必要性を訴えている。

足立氏は、海外のインフラと比べ、日本のインフラが「二流、三流のレベルに落ち込んでしまっ

ている」との問題意識を持ち、国土交通省OBに呼び掛けて研究会を発足させた。同著の発刊により「インフラの整備水準は大きく向上し、概成しつつある」と公共事業費の削減を主張する財務省に反論する狙いもある。

題名の『荒廃する日本』は、1980年代に急速に進んだ米国のインフラの老朽化問題に焦点を当てた『荒廃するアメリカ』をなぞらえたもの。維持管理の軽視がインフラの荒廃を招き、経済活動や国民生活に大きな影響を及ぼした当時の米国を教訓に、日本がインフラ投



資に再び力を入れる必要性を訴えている。

足立氏は、都市間の平均連絡速度が先進国に大きく劣る現状について「物流コストの上昇につながり、生産性の面で国際競争に勝てるはずがない」と高速道路の6車線化の重要性を強調。公共事業費の水準としては「老朽化対策も含めれば、国費で8・0、8・5兆円の水準を目指すべきだ」と指摘している。

同著は日経BPの発行。書店やAmazonなどで購入できる。定価は2000円(税別)。